

衆議院の解散にあたって

11月21日衆議院が解散致しました。文字通り、大義名分なき、消費税の政治利用と云う、異様な解散であります。又、スキャンダル隠しの煙幕解散でもあると思います。

私は安倍内閣の政治姿勢に危うさ・危険性を感じています。まさに「いつか来た道へ逆戻り」です。日銀総裁の決定の仕方、内閣法制局長官の強引な任命、NHK会長人事や特定秘密保護法の強行採決、武器輸出三原則のなし崩し的な手法、集団的自衛権の閣議決定等、一つ一つ挙げればかぎりがない程の数の力による謙虚さのない強硬姿勢が展開されていました。

又、一方では、官僚政治と中央集権政治が完全に復活していますし、経済界も政治献金を復活しようとしています。議員定数削減も約束したはずです。

子供たちが自ら命を絶つ様な教育現場、働きたいが働く場を与えられない方々、額に汗して働く人たちが「報われない」との思いを抱くのはなぜか、その原因に今の日本の、政治、行政、経済、社会のあり様が関わっていると思います。私はその責任を痛感しています。

私は信念は譲れないとの覚悟で、先の総選挙において仲間と新党を立ち上げました。ここで政治家として責任を放棄するわけには参りません。

その思いを実行するには、「生活の党」の数人のメンバーではなし得ません。今一度、民主党に戻り、「いのち」と「暮らし」と「地域再生」を胸に誓い、初心に帰って働かせて頂きたいと願っています。そして、「皆様との約束を守る」ことが政治家として原点、信頼の絆であるとの信念のもと、今一度チャンスを取りたいと思います。

ふる里、東三河の為「一貫是々非々」の精神で改革の道を邁進して参る所存です。

皆様の変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げ国会解散のご報告とさせていただきます。

鈴木克昌